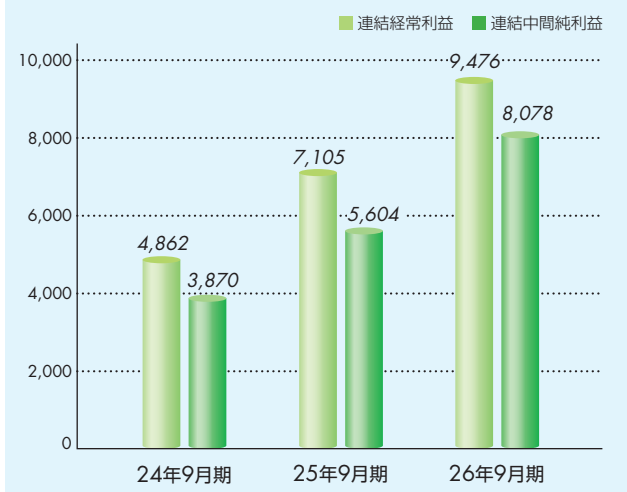


連結ベース

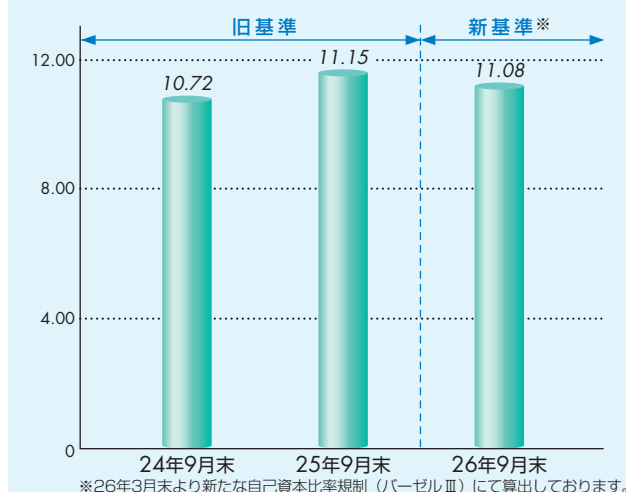
連結経常利益・連結中間純利益

(単位：百万円)



連結自己資本比率(国内基準)

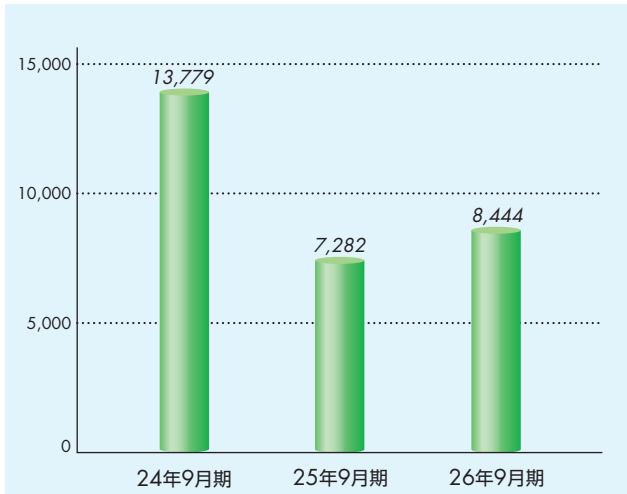
(単位：%)



単体ベース

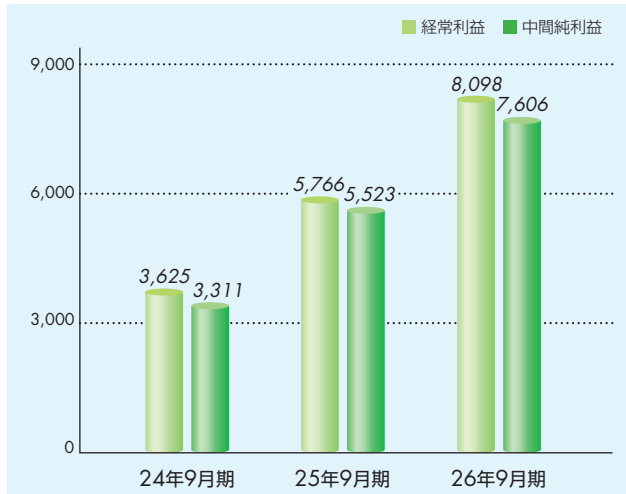
実質業務純益

(単位：百万円)



経常利益・中間純利益

(単位：百万円)



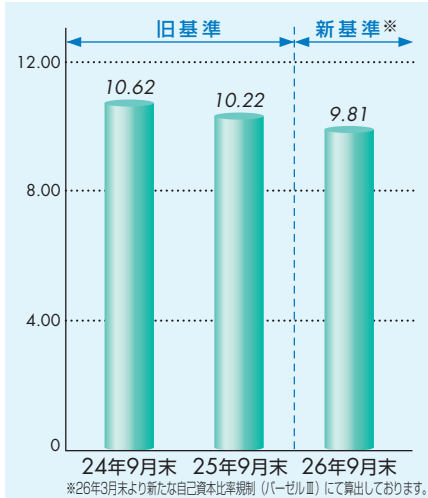
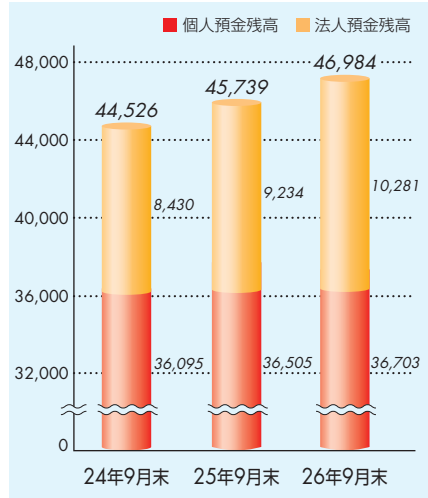
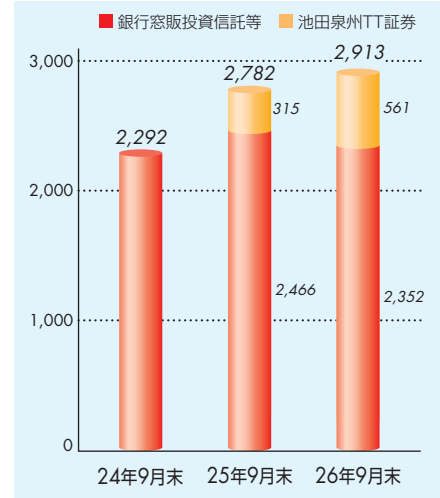
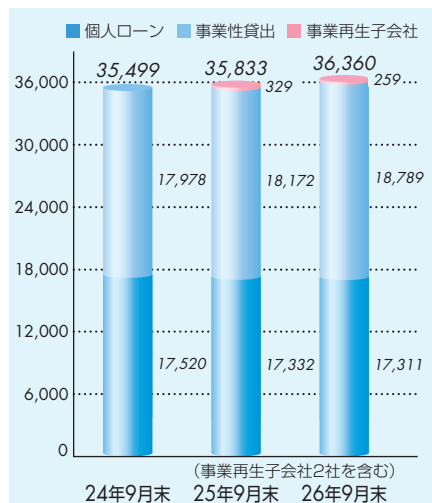
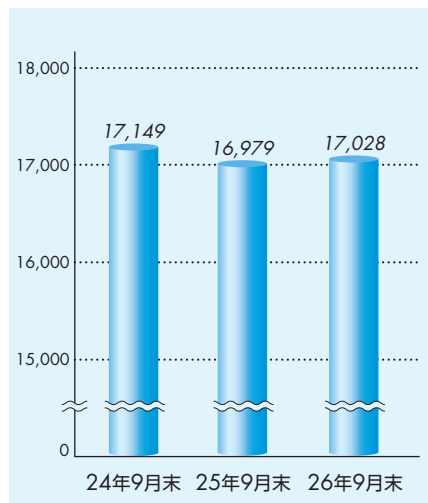
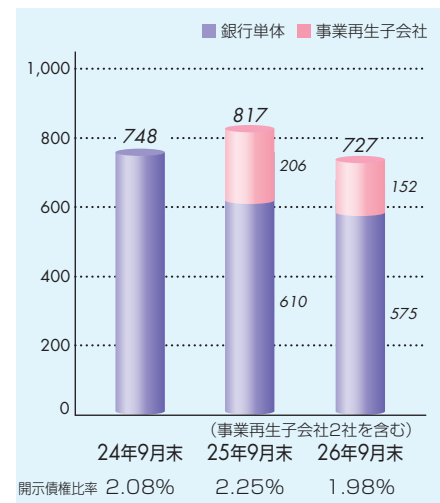
業績の概要（連結）

池田泉州銀行グループの平成26年9月期連結業績につきましては、連結経常収益は、貸出金利回りの低下を主因として資金運用収益が減少し、国債等債券売却益や株式等売却益の減少により、その他業務収益並びにその他経常収益も減少したことから、平成25年9月期比39億71百万円減少して、499億40百万円となりました。

一方、連結経常費用は、預金などの調達利回りの低下を主因とした資金調達費用が減少し、国債等債券売却損・償却、不良債権処理や金銭の信託運用損の減少により、その他業務費用並びにその他経常費用も減少したことから、平成25年9月期比63億43百万円減少して、404億63百万円となりました。

以上の結果、連結経常利益は平成25年9月期比23億71百万円増加して、94億76百万円となり、特別損益並びに法人税等合計などを計上後の連結中間純利益は、平成25年9月期比24億74百万円増加して、80億78百万円となりました。

また、池田泉州銀行グループの連結自己資本比率は、11.08%となり、国内基準行に求められている基準の4%を十分に上回っております。

単体ベース
■ 単体自己資本比率(国内基準) (単位: %)

■ 預金残高 (単位: 億円)

■ 預かり資産残高 (単位: 億円)

■ 貸出金残高 (単位: 億円)

■ 住宅ローン残高 (単位: 億円)

■ 金融再生法開示債権残高・比率 (単位: 億円)

業績の概要 (単体)

池田泉州銀行の平成26年9月期の単体業績につきましては、経常収益は、貸出金利回りの低下を主因として資金運用収益が減少し、国債等債券売却益や株式等売却益の減少により、平成25年9月期比46億53百万円減少して、443億39百万円となりました。

一方、経常費用は、預金などの調達利回りの低下を主因とした資金調達費用が減少し、国債等債券売却損・償却、不良債権処理や金銭の信託運用損の減少により、平成25年9月期比69億85百万円減少して、362億40百万円となりました。

以上の結果、経常利益は、平成25年9月期比23億32百万円増加して、80億98百万円となり、実質業務純益は、平成25年9月期比11億62百万円増加して、84億44百万円となりました。

また、特別損益並びに法人税等合計を計上後の中間純利益は、平成25年9月期比20億83百万円増加して、76億6百万円となりました。

預金残高については、平成26年9月末残高は、平成25年9月末比1,245億円増加し、4兆6,984億円となりました。

また、貸出金残高については、平成26年9月末残高は、地元企業への事業性貸出を中心に、平成25年9月末比597億円増加し、3兆6,101億円となりました。

なお、平成26年9月末の金融再生法開示債権残高は、事業再生子会社2社分を含め、平成25年9月末比90億円減少して727億円となりました。この結果、平成26年9月末の開示債権比率は、25年9月末比0.27%減少して1.98%となりました。